

# 光の子



No.94 2001. 7. 1.

- 人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさいと、主は言われる。(ルカによる福音書 6 : 31)



「梅雨の晴れ間」

え・中島英子

「親竹子竹」

老鶯やずつしり厚き山の雲

遙かなるものさみしき麦の秋

栗咲いて峡にあまねき水の音

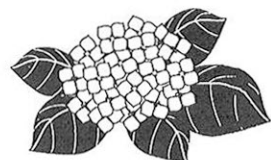
まっさきに風を捉へし余り苗

旧端午納戸を風の吹き抜けて

母恋のはた父恋の草の笛

親竹の揺るれば子竹傲ひけり

黛 執 (「春野」主宰)



# ひとやすみ

竹花 信恵



梅雨空の割れ目からの陽射しがまぶしい今日この頃となりました。元気にかけまわる子どもたちの顔は、早くも日に焼けています。エネルギーあふれる子どもたちである反面、今までの新学期への不安と緊張感が、一気に溶けだしていく季節です。

環境としての自然と子どもたちのころの状態を含めて気候の変化についていくのも大変です。溶け出して水たまりのようになつた疲れをさわやかな風で蒸発させたところですが、梅雨に入ったと知らされました。

「何か楽しいことない？」中三のヒロミがつぶやいていました。指折り数えて待っていた修学旅行を終え、心の空白状態のようです。

自分の生活をやり直したいと決意してここを選んで来た日から半年、よくがんばってきました。私たちのほうが助けられたくらいです。

自分の周りの全てが変わった中で自己を確立しようとするとき「ちょっと休ませてよ」ということがあってもあたりまえかも知れません。「ストレスたまってるんだ」とため息をつく小学生もいます。ちょっとしたことでけんかになってしまうこともその表われでしょうか。にぎやか

か過ぎる毎日が続いています。

「五月病」「ブルーマンデー」「祭りのあとの寂しさ」そして私たちの「家訓」のひとつに「行事のあとの生活に気をつけ、子どもたちのころの在りようを見失わないようにしよう」というのがあります。共通していることは、虚脱感であり、気の緩みかも知れません。

普通の家庭に近い環境で育てることが中心であり、できる限りゆつたりとした人間関係をはぐくみ、その中で心身を休ませ、疲れを癒し、安心して「外」に出て行けるように関わり環境を整えることが、目標になります。と同時に、大人も子どもも心身の緩みが緩みっぱなしとなり、こわれてしまわないように支えていかなければなりません。そのバランスの大切さを痛感しています。

先日バザーがありました。曇り、雨マークの天気予報を見事に裏切り、かき氷がびつたりといい天気となりました。

朝早くからボランティアとしてたくさんの方々がかけつけてくださり、助けられてここにいることができることを実感するひとときでした。

無償で喜んで汗をながして下さるかたがたの姿に子どもたちもきつと大切なことを学ぶに違いありません。

しかし、これとても長年の経験からの学習で随分と楽になったのである。

スライスした玉葱を炒める前に、電子レンジあるいはオーブンでバターを加えて、一〇―十五分処理するのである。こうすると炒めるのに要する時間が半分ほどになる。この方法はテレビの料理の先生が薦めていたと愚妻は言うのである。ごく最近スライサーも買い求めたので、また時間は節約された。

カレーの種類は、スパイシーな仙道風、あまり辛いこないココナツパウダー入りの スリランカ風、それに学生の求めに応じて最近作るようになった激辛カレーの三種類である。自画自賛になってしまいが、どれも結構いい味で一杯千円はもらっても良いと思っている。少なくとも酔っぱらいに食べさせるカレーでは断じてない。

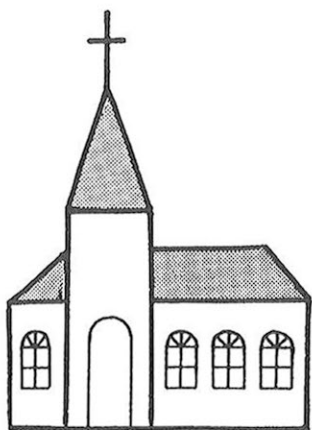
でもコンパの一週間ぐらい前になると、決まって主将が「二次会は先生のお宅にお邪魔していいですか」と聞きにくるので、よだれをこぼしそうなその顔を見ると、にべも無く断るわけにもいかなのである。それにしても六十歳を越した身には、年三回の営業ではあるが、少しこたえるようになった。

このまえ新人生歓迎コンパが終わっ

支えられている、見守られている、心配されている、そして愛されている気持ちは大きく未来につながっていくことでしよう。「ありがとう」の想いを積み重ねて、基準外職員確保のためのバザーを無事終えることが出来ました。

全国各地から、連日、たくさん荷物を届けていただき本当にありがとうございます。お礼の言葉さえ遅れがちな私たちであることをこの場をかりてこころからおわびするとともに皆さんの応援を子どもたちの笑顔の多い生活のために役立たせていただきたいと思います。

ひとやすみしたら、夏休みの準備が始まります。



学者もどきのつぶやき ④9

## 仙道カレーライス邸

山形大学医学部 仙道 富士郎 部長

病理学教室の助教授をしていたときから、もう二〇年以上になるが、医学部の柔道部の顧問をしている。主なつきあいは年三回のコンパである。新入生歓迎、OB会総会(と言う名の飲み会)、卒業生追いつきの三回である。

一次会の後はほとんど全員が小生宅にやってくる(この表現は愚妻側から見た表現で、小生は一次会に出席して、結構酔っぱらって帰って来ることになる)。

一〇人以内のOBも含めて三〇人を越す。六畳二間の襖をはずしても、廊下に学生が溢れることは、必定である。

きれいい好きで(最近はず)、酒を飲めない愚妻はこの会をひどく嫌がる。むべなるかな!

懐柔策に料理を小生が作ることにした。といつてもかけ声だけで、ほとんど彼女に依存するのだが。

カレーライスを作るようになって何年経つか。小生は結構料理が好きで、カレー粉も二〇種類以上のスパイスを適当に混ぜて作ったりするためか、評判が良く、学生達はいつぱい食べる。釜は四つで三升五合以上飯を炊く。大変なのがにんにく、しょうがの擦りおろしで、決まって指がとでも痛くなる。いつからか学生にこのつらい作業を手伝わせることを憶えたが、最近では飲食業者専門の食料品店を見つけ、そこでチューブ入りのすでに擦りおろしてあるものを買うことにしているので、すごくこの作業に関しては楽になった。

この業者専門店に行くと、いかにもそれらしい、すこしく汚い無精ひげの一杯飲み屋のおじさん風の人に良く出会う。カレー屋の親父である小生も最近はこちらでほとんど材料を揃えるようになった。

なんといつても時間のかかるのは玉葱炒めで、おおきな袋に入っている玉葱を三袋分ほど炒め終わる頃は決まって深夜の十二時を過ぎている。

たばかりであるから、あと定年まで八回の営業を残すばかりとはなった。頑張らなくっちゃ。

営業日の到来を宣告すると決まっても不機嫌になる愚妻ではあるが、きちがいがいいさんにここまでつきあってくれたことにこの場を借りて感謝し、稿を終えたい。



## 2つの文化に生きる

28

日本キリスト教団東大宮教会  
バーガー 京子

日本キリスト教団婦人会連合の世界教会運動委員会が主催しているアジア学院研修生達のホームステイプログラムが今年も六月の始めに開催された。これは毎年新しく日本に来るアジア学院の研修生達を関東周辺教会員の家庭に日曜日を挟む二泊三日のホームステイに送り出す企画である。毎回このホームステイプログラムは初日に西早稲田のキリスト教会館で委員の私達が心からの手作り料理で研修生をもてなす昼食と交わりの会を持っている。

毎年四月に入学してくる約三十名の研修生達はアジア・アフリカの様々な国から農業の指導者がそれぞれの国のための研修に派遣されてきている。今年は日本も含めて十六カ国か

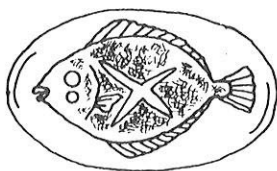
らの研修生が集まった。それぞれの国で様々な問題を抱え、人々の生活上のために何とかしなければと集まった地域の指導者たちのほとんどはクリスチャンである。去年に続いて今年も数人研修生が来ているリベリアという国ではつい最近の一九九六年まで約六年間に渡って内戦が続いていた国である。生活の立て直しの教会が中心になってカウンセリング、医療、難民への食料の調達等の働きをしている。アフリカ西部にあるこの国を私達は遠い国と思いがちだが、こうしてアジア学院という学びの機関を通して、ナマの声を直接聞かせてもらえるのは毎年のことながら感謝である。そして、教会を通して、世界は一つといった神様の大きな御計画を知らされる祝福された時でもある。アフリカなんてほんとうに遠い地のような気がしていたが、この奉仕をさせていただいてからほんとに身近に感じるようになった。

ところで毎年のことながら研修生の中には必ず、豚肉、牛肉を食べない人がいるためいつもこの昼食会の献立には気を配り、肉類は鶏肉を使い、野菜、果物を豊富に使う料理を考えている。今年は講演してくださった日本の婦人の方の料理理が当日、飛び入りで加わった。豆の甘露煮で

ある。ほんとうにおいしい甘煮だった。しかしながら、「豆はタンパク質が豊富だし、そのほのかな甘みが疲れた時などほんとうにおいしく、ほっとする。」などと思っているのは何と日本人だけのようだ。タンパク質が豊富というところまではいいのだが、そこに砂糖をいれるのが、「気持ち悪い」らしい。「スイートピーンズ？」と言って研修生達にすすめたが、見事、十人中十人も断られてしまった。実はこれと同じ経験を私はアメリカでもしている。おいしいそう言うがら豆に似た豆があったので、ある日、甘煮を作って食べていたら夫の家族のみんなから軽蔑にも似た目で見られてしまった。やっぱり豆と砂糖という発想は気持ち悪いということだった。そこで私は別は傷つきもせず、なぜか、アメリカでは豆の甘煮は気持ち悪いもの、という「常識」を素直に受け入れられたのは自分でも異文化尊重が自然にできるようになったのだと自分をほめるようになった。異文化を尊重するにはそれと同じような状況を自分の側に想定すればよいのだ。例えば、豆に砂糖が気持ち悪いのと同じ日本人側の状況といえ、アメリカで食後に出てくる「ライスプディング」がある。お米に砂糖をいれたプリン

である。これは本当に気持ち悪い。異文化同士が住んでいる我が家の食卓ではタブーの献立が一つだけある。それはお頭付きの魚である。新婚当時は「こんなご馳走を。」と「こんな非常識で気持ち悪いものを。」の言い合いの時もあったが、今は食卓には頭をとった魚を出すことで我が家の平和が保たれている。死んだ魚の頭がついているのが気持ち悪いのなら私にしてみれば、鳥の丸焼きに頭とくちばしがついてそれがこちらをにらみながら食卓に出されたようなものだろうと想像してみるとなぜか相手側の気持ちが素直に受け入れられる。

今年も十六カ国もの国々から研修生にきているアジア学院では食事一つとっても様々な事が起こっているだろうと想像してしまう。この夏も又、教会学校の子ども達をそのような異文化生活の体験につれていけることを楽しみにしている。



## エッセイ

## 二枚の絵

近所のTさんから、お茶でも飲みに来ませんか、と呼ばれた。

私は家内と、近所の人と三人で、Tさんの家に向かった。Tさんの所では、最近家を新築したばかりである。脇の道を通る度に、建築の進行状況は見えていたが、完成した様子は見ていなかった。新しい家を見せてもらうという意味もあって、出かけたのである。ゆったりとした間取りは、かなり贅沢にできている。どこもかしこもきれいにできていて、快適な生活が想像できる。

しかし、それよりも、びっくりした事がある。玄関を入った左の壁に、私が描いた小さな絵が二点、飾ってあったのである。いかにも特別扱いという感じであった。

実は、大きい方の絵、四号の風景画については、次のような思い出がある。

もう十年以上も前の事である。Tさんの亡くなったお父さんMさんと、酒でも飲んでいたのであったらと思うが、雑談の中で「あなたの絵、一枚欲しいもんだね」「あ、良いですよ、こないだ描いたのがありますか

ら、あれを持ってきますよ」という事になったのである。

約束通り、描いたばかりの小さい絵、筑波山への登り口のあたりを描いたものを、Mさんに差し上げた。そして何日か後、Mさんの家に行ってみると、例の絵が、畳の部屋の上の居の上に飾ってあった。しかも、建具屋で作ってもらった額縁に入っていたのである。檜の木で作られたその額縁は、カマボコ型に丸く削ってあり、カンナの跡が少し残っていた。建具屋が心を込めて作った手造りの額縁は、そのままMさんの心も思っているように思えた。

彫刻家 中島 陸雄

額縁で買って来てしまえば、それは簡単である。しかし手造りのものは買った額縁とは違って、恐ろしく素材である。飾り気がなく、Mさんの私の絵に対する心が感じられるものであった。多分、新聞紙か何かで絵を包み、建具屋に相談に行った筈である。そしてできたのが、この豪華な額縁よりも美しい額縁であった。私は、Mさんの家へ時々行った。あの風景画の飾られた部屋のコタツに入って、或る時はMさんの友達も

来ていて、楽しく雑談しながら酒を飲むのが常であった。Mさんは、酒の強い人であった。そして、大きな体の中に、デリケートな心づかいを持っている人だった。

そのMさんが、余り長く思いもせず亡くなってしまう。Mさんが亡くなっても、あの絵は、あの部屋に飾ってあった。

跡を継いだTさんに、私は或る時、一つの提案をしてみた。

「あの絵、いろいろ欠点が見えるんで、少し直したいから、ちょっと貸してよ。」

これはその時の私の偽りのない気持ちだった。一旦自分の作品を人に渡してしまえば、もう自分の自由にはならない。それを捨ててしまおうと大切にしようとして、所有者の勝手である。しかし、自分の作品を大事にされればされる程、作品の欠点を修正したくなるものである。それも、まだ個人の所有になるものなら良いのだが、公共の場所に置かれた作品は、絵でも彫刻でも、たとえ欠点が見つかってもなかなか修正ができない。苦しいところである。

或る、彫刻の大先輩に、その事を聞いてみた事がある。先輩は「若し買い戻すことができるんだったら、金を持ってでも引き取りたい恥ずか

しい作品もあるよ。」と言った。

私の場合には、それ程大袈裟ではないのだが、少々手直ししたかったのである。

所が、Mさんの息子Tさんの返事には、びっくりさせられた。

「作品の上手下手ではなく、あの頃の作品だから、今のものと違う価値があると思うんですよ。だから直すさなくても良いんです。」

これには私もギャフンである。全くその通りである。したがって、その絵一筆の修正もされずに元のままになっている。

その後Tさんが、家を新築した。私は、東京の八重洲で行われたグループ展に出品した最新の絵、今描いたばかりのスペインの田舎の風景なのだが、それを新築に合わせてプレゼントした。

Mさんの家の玄関脇には、私の若い頃の未熟な古い絵と、一番新しい小さい絵と、二枚、並んで飾ってある。





# プロシズム

## 原田家日記

神田保育士が長期病欠を余儀なくされて、私が神田グループの担当代理となり、加えて神田グループの惣花が服部グループに、服部グループの藤野が神田グループに、と移行も生じ、二〇〇一年度の原田家は混乱で始まりました。特に担当不在となった神田グループの子どもの心のぶれは看過できない状況に陥り、窮余の策で、指導員の私が正式に担当に就くことになりました。

しかし、問題はそれだけでは収まりませんでした。新しく入ってきた藤野と砥部兄弟のソリが合わず、グループ内のトラブルが絶えなくなり、ついには「何で藤野なんかが入ってきたの」という言葉が小学三年の雅好の口から漏れるようになってしまったのです。

会議でこの状況を問題にしたところ、施設長の言うことに、「個別の子どもの楽しい時間づくりはこれまでもなされてきたが、グループと

しての楽しい時間を持つことがこの際必要じゃないか。『このグループで本当に良かった』と思える時間を作するためにゴールデンウィークを利用して、どこか一泊旅行でも企画してみようか」と勧められたとき、そんなことができるとは思ってもみなかった私は、一種の感動に襲われ、すぐさま快諾しました。

一番上の浩郎は、進学資金を貯めるためにアルバイトをしているので、彼を除く雅好、藤野、それに五月一日より仲間に加わった新人職員の大赤さんと私で箱根一泊旅行に行くことになりました。

児童養護施設で子ども達を旅行に連れて行く場合は、大勢の入所児童全員がバスに乗ってでかけるという大イベントとなるのが普通です。わずか三人の子どもだけ、しかもそれに職員が二名も引率するなど、他の多くの児童養護施設では考えられないことだと思えます。

旅行のほうはというと、予想どおりアクシデントとトラブル続きの珍道中で、「喧嘩をしない」という目

標は達成することはできませんでしたが、この一泊二日というものの、子ども達は嬉々として過ごし、皆にとつて一生心に残るであろう貴重な時間となりました。

しかし、まだ、ほんのスタートに過ぎません。グループの人間関係改善とストレス解消への道は、今後も試行錯誤を繰り返しつつ取り組まねばなりません。

梶原 完



## 光の中で

佐藤家

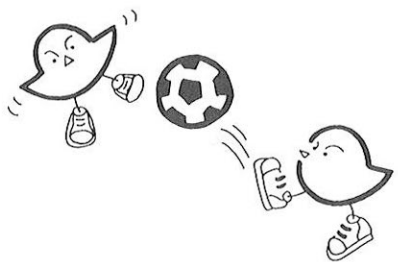
藤丈ほどの若苗を抜けてくる風の薫りに夏を感じ、雨が降る度に緑の鮮やかさを楽しんでいるこの頃です。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

命に相手選手と競り合っていました。弟の尚二のプレースタイルは、ゴールを目指してボールに一直線！気がついたら俺はここにいた？！性格がそのまま現れます。兄弟の表情には少しだけ自信が溢れ出ていました。

そんな彼らには、同じサッカーを愛する仲間として、とても愛着を感じます。サッカーは『子どもを大人に、大人を紳士にする』といわれています。技術だけを修得するのではなく、様々な経験から多くを感じて学び、人間性に磨きをかけて大きく成長して欲しいと心から願います。

いつの日か、君たちが家で、学校で、そしてサッカーをプレイしている時も人の気持ちを考えられる紳士になることを信じて…。さあ、kick off!

中川 昭雄



## 河のほとり

倉澤家

高三の亜希の口うるささは倉澤家一番！誰もが認めるナンバーワン！パン粉がたくさんついたままのバターナイフがそのままマーガリンの中に入っていると「もう誰なの！パン粉をつけたまま入れたのは。きれいに拭いてから入れておいてよ！」洗濯の終わった衣類がいつまでもカゴの中に入れて放しなのを見て、「すぐに干さないとかさくなるから早く干しなさいよ。」残り少なくなつた冷水ポットの麦茶を見つけ、「最後に飲んだ人は後の人のこと考えて麦茶作ってよ、いつもちよつとだけ残してそのままなんだから。」と、こんな調子。

しかし実はこれらのことは以前担当者が亜希に言っていたことそのままだ。担当者自身も自分の母親に言われてきたことを子どもたちに伝えることが少なくないが、亜希を見ていると担当者が乗り移つたようで恐ろしくなる。「亜希ちゃんは何も口うるさい。」と、沙慧、有希、恵美の三人が声を揃えて言うほど口うるさい亜希のおかげで、最近では担当者の口うるささはすっかり日立たなくなっている。

佐藤家で暮らしている男子にはある共通点があります。私も含めてですが、サッカーがとても大好きで生活の一部になっているという事です。中学三年生の信一。彼の左足で蹴り出されたボールは、なかなかの勢い、回転、同じ軌跡で相手に届きます。弟分では、この四月から地元

のサッカー少年団に通い始めた山谷兄弟が日々泥だらけになりながらボールを追いかけ、更にその弟分には、幼稚園年中組の静一が訳もわからないうまま一緒に走り回っています。

Jリーグや日本代表戦のサッカー中継の日は、男子五人がサッカー観戦に興じダイニングルームにあるテレビの一角は完全に別の雰囲気醸しだし、男の世界を作り上げています。

山谷兄弟が、先日初めて試合を体験しました。試合前日から緊張した表情で、試合は大丈夫かな？と心配しましたが、本番に強いタイプらしく堂々とプレーをすることができました。兄の憲一は、その落ち着きぶりでディフェンスラインを統率し懸

十四年間の暮らしの中で、こんなに影響を与えてしまったことを申し訳なく思いながら、亜希の口うるささは担当者譲りだと言われることが、少しうれしくもある担当者である。

倉澤智子

## 子どもたちの季節

仙道家

三月下旬、三歳の男の子が仲間に加わつた。乳児院からやってきたその子・和哉は、義父から虐待を受け、乳児院に入所したのでした。

その子をしつかり受け止められるだろうか・と、やはりとても不安になった。やってくる日が近づく度に、現実感がなくなり、私が和哉の担当になるのは、実は違いました！と、ドッキリカメラのような展開になるのが本当かもしれないと、不安は逆に膨らむ。

いよいよ当日。乳児院の先生と児童相談所の担当ワーカーと一緒にやってきた和哉は、体が小さく、くりくりとした大きな目が特徴のかわいい子だった。やっぱりドッキリカメラではなかった…。

乳児院の先生からは「慣れるのに時間がかかるでしょう。」とのお話。少しの傷をとんでも痛がるなど触覚が敏感であるとのこと。



仙道家の他の子たちには、たくさん痛い思い、怖い思いをしてきたので優しく接するように話をしてきた。子どもたちは「和ちゃん」と優しく接してくれる。周囲の子どもたちの優しさからか「慣れるのに時間がかかる。」ことはなく、皆にっこりとかわいい笑顔を振りまき、お兄ちゃんお姉ちゃんの後ろを付いて回り、「うるさい。」といわれる程良くしゃべり元気がよい。いたずら好きの腕白である。

五月に和哉のいた乳児院の先生が数名遊びにいらした。その時、「乳児院にいた時と全然違う。こんなにしゃべらなかつた」と、驚かれた。

《環境》の変化によるものなのだろうか。どちらの和哉が本当なのだろうか。無理をさせてはいないだろうか。不安はやっぱりしばみはしない。

池田 祐子

現場から

### 続・光の子らしく

③

岩崎 まり子

梅雨の空気を紫陽花の薄紫色が少しだけ軽くしてくれています。

蒸しているかと思えば肌寒かったり。子どもたちはTシャツと半ズボン、そして裸足という格好が好きですが、大人の私には寒々しく思えて何度も「本当に寒くない？」と尋ねてしまうことがあります。皆様、いかがお過ごしですか？

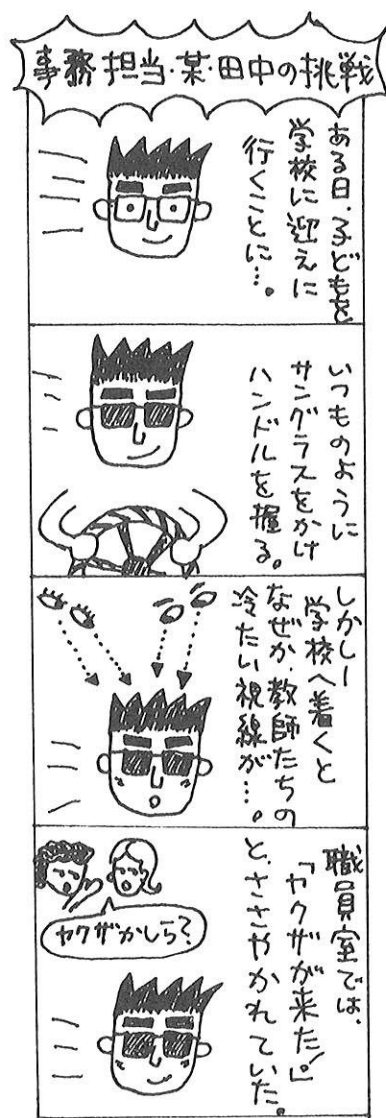
ここに集う子どもたちは、いえ、ここに来なければならなかった子どもたちは、誰も皆、心に大きな傷を負っています。時にその傷は、その子どもの将来にわたってまでも対人関係に影響を与えます。幼い頃、親に手放された体験は、そのくらい強烈なショックを与えるものなのです。

そうに聞いてきます。

先日も、私が手紙を書いていたところ、彼女が傍にいて暇を持って余したか、自分に目を向けてというサインか、書いていたテーブルを蹴飛ばし始めました。最初は、優しく「やめてね」と言っていたのですが、トントントントン……ドンの段階で「あー！……「ふえーん！……」たちまち大粒の涙が、短くてちよつと上を向いた、泣くと赤くなつてしまふ鼻のわきをつたって落ちました。そして泣きながら尋ねるのです。「しゅきょ？」

「もう自分は嫌われてしまったかもしれない」「見捨てられてしまうかもしれない」と思うのでしょうか。小さな李奈ちゃんに不安そうな瞳で「しゅきょ？」と尋ねられるたび、心が痛みます。全面的に依存しなければ生きていけないのに、その相手に

対し全面的な信頼を寄せることが出来ないというのが、本当に哀しいことです。申し訳ないことです。「いつ手放されてしまうかわからない」それが、李奈ちゃん



頼を寄せることが出来ないというのが、本当に哀しいことです。申し訳ないことです。「いつ手放されてしまうかわからない」それが、李奈ちゃん

んをはじめ、ここに来なければならなかった子どもたちに共通する感覚のように思います。眠る時は殆ど掴まるようにくっついて来ますし、そうでなければ何かを握りしめて寝入ります。まるで、そうしなければ一緒にいるものが逃げてしまうかのよう……。

李奈ちゃんは、母親の病の治療のため早産、保育器、死別。養育困難で乳児院、そして、ここ光の子ども家というコースを歩んできました。この世に生を受けてまだたった四年間しか経っていません。その中で、彼女の中から逃げ、こぼれ落ちてしまったものは何だったのでしょうか。あまりにも大きすぎて、想像すらできません。少しづつ、少しづつでも埋め合わせていけるようになります。

繋がりが出来てきたお父さんと協力し合い、「何があっても大好きだよ」という言葉に責任をもって、彼女がいくつになっても、どうなっても伝え続けていきたいと思えます。

今、李奈ちゃんがここに居て、何がそんなに可笑しいのかわからないくらいに笑い転げているとき、私はとても幸せになります。李奈マジックにかかってしまったようにその笑顔は伝染していきます。きっと皆さんのところにも……。

養護メモ 88

### 働くことと居ること

児童養護施設光の子どもの家は、幼く年若いうちに、最も親しい者たちから拒絶や別離を余儀なくさせられた子どもたちが、人と隣り合い、安心して暮らし、心身を癒し、健やかに育つことを願って建てられた。

五歳になったばかりの藤耶は、法律上の父と自分の要求を制御することが著しく困難な母、二人の同胞の末子として生まれ、産院を経、その容貌からお猿さんとニツクネームされた乳児院から目印のお猿のシールを持ち物に付けてここにやってきた。

荒ぶる心を持ってあますような野生の言動が最初の頃の藤耶の表現だった。奇声を上げ、家の中と外の区別がなく、噛む殴る蹴るなど暴力的な表現が人との関わりの中であった。

入所後まる一年が過ぎ、幼稚園入園をズラして……という周囲の意見もあつたが、四月に入園を果たし、かわいらしい表情も多くなつた最近、四人目の担当が予定されている赤秀保育士への担当移行のために面接した角張心理専門員が、どうしてこの子が児童養護施設にいるのだろう、もつとほかの種別の施設ではないか

と、いぶかったほどである。

放任や見捨てられ体験などのマイナスの人間関係しか経験してきたいなかった藤耶にしてみれば、手加減なくしがみついていたと、今、目の前にいる、身体生命の安全を保護する大人はどこへ行ってしまふか不安の極みの連続だったのだろう。

最初の担当者であつた竹花は主任保育士として全体を見る立場に変わり、二人目の服部は、複数の重度の被虐待体験を持つ子どもたちへの対応が困難になり担当を変更して今年度に臨み、三番目に藤耶を受け継いだ梶原は、五月に赤秀保育士が加入したことで本来の指導員職に戻る。

光の子どもの家の職員たちに「居続けることがこの働きの基本である」ことを確認してこれまで運営してきた。

もしあなたの父が事故に遭つて重体となつたら、たとえその父と諍つた後だつたとしても、「やつた！これでセイセイする！」と、あなたは思わないだろう。難しそうな顔をしているお医者さんに、「どうか、私の寿命をつないでも生きていられ

るようにしてください」と頼まないだろうか。

たとえどんなことがあつたとしても、その人が父でありあなたが娘であることは他の誰にも代わることは出来ない事実なのだ。そんな関係が最初に学習する人間関係で、それを他の人々に応用しながら人は関係を形成していくものなのだ。他の誰とも代わる事が出来ない関係が家族関係だつたし、その中であなたも愛されて生きてきたのだ、と。

ところが、ここに来る子どもたちは、他の何か……たとえば大人の我がまま……と代えられ、かけがえない関係など経験することがなかったと言つて過言ではないのである。

そんな子どもたちと出会い、プライベートに踏み込み、暮らしを創ろうと呼びかけてその人の人生に関わることとなつた者たちが光の子ども家の職員なのである。

大学などの教育機関で、面接技術や様々な福祉関連機関で働くための教育を受けた若い人たちは、「働くこと」が自明のこととされてきたのである。

菅原 哲男

だから、働かなければならない、子どもの要求にも、先輩の要求にも応えなければならぬ……と必死で働き始めるのである。そんな必死さが長続きする訳がない。終いには、例えば、私の適職ではなかったかも、という疑いの淵に落ち込み、底なしの淵からの脱出は困難を極める。

そこで、何が出来なくてもいい、居続けることが試される。居るといふことの意味を考えたり、訓練を受けていかなかったと思ひ当たるのだ。

居続けるためにはまず居なければならぬ。そして、居ても何の不思議もない存在になるのである。それが光の子どもの家における最初の関わりなのである。

藤耶の生い立ちと職員の間には裏返しそのままである。その裏返しに重ね合うまでの距離を埋め合わせるための困難が見える地点が、実はその淵にいる職員の位置なのである。

子どもたちとの暮らしの中で、ほつと出来るような関係を形成するには、その淵を経験し、そこから這い上がり、子どもと同じ地平を得ることが初めて可能にするのだろう。





6月9日(土)に基準外職員確保のための

第8回バザーを行うことができました。天候にも恵まれ、

大盛況で、535,039円の売上げでした。

バザー用品など、たくさんのお協力をおたたくしまして、本当にありがとうございました。

なお、来年度も、基準外職員確保のためのバザーを行う

予定です。バザー用品のお協力をよろしくお願いいたします。

送り先：光の子どもの家 バザー実行委員会



日誌抄

＝子どもと創る暮らしの風景＝

2月1日 ▶ 3月末日

2月

- 1日 東京工業大学院景山佐氏をお迎えし埼玉県児童福祉施設職員研究会・児童養護施設協議会合同研修会
  - 2日 次年度の事業計画策定開始 2000年度自立支援計画反省会開始
  - 5日 7年前に卒業した山形隆夫が職を失いしばらく滞在
  - 6日 埼玉県児童養護施設協議会県外研修に大分県へ
  - 8日 左福子 幸手商業高校推薦入試合格。
  - 9日 同仁学院より3名が見学と研修と交歓と
  - 16日 TV朝日今年度2回目の取材開始
  - 輪島環県立高校合格
  - 18日 大利根藤幼稚園発表会 劇やダンスや合唱など
  - 19日 グループホーム研究会大阪大会に梶原、倉沢、菅原 20日まで
  - 23日 2月生まれ誕生会
  - 25日 菅野Dr来訪して13名と面接。スーパーヴァイズ
  - 26日 受験生を慰労する会 たくさんの方々に労われる
- 今月の物品ご寄贈者 総和町 杉本英夫 甲府市 立正光正園 新潟市 宮下愛 浜松市 満丸文子 名古屋市 渋井みさ子 千葉市 清水喜平 東京都 鳥越宏子 矢口陽子 株式会社ジャパンアート 西原喜三郎 浦和市 小柳久子 小柳千晶 越谷市 有限会社越谷包装 岩槻市 加部芳子 栗橋町 鯨井香代子 大宮市 三木双葉 加須市 堀切京子

3月

- 1日 丸木県会議員との会見を受けて昨年9月県議会での請願採択は実質零回答と総務・予算対策委員で総括
  - 2日 運営会議で水山萌季の進路協議 浪人・留学も視野
  - 5日 原道小学校との定例連絡会
  - 9日 県立久喜工業高校卒業式
  - 石川県児童養護施設協議会で菅原施設長講演
  - 10日 県立杉戸高校卒業式
  - 11日 8年前に卒業した小林悟の妻より家族問題で相談
  - 神田幸枝病気のため長期療養を医師より命じられる
  - 16日 大利根中学校卒業式
  - 17日 出発の会 水山萌季・引山将司が高校を卒業し、たくさんの関係者が駆けつけて・・自立へ向かう
  - 22日 輪島環 菅野クリニックに入院
  - 24日 南和哉(3歳)入所 仙道家池田が担当
  - 第62回理事会計画予算案の審議など
  - 28日 菅原施設長、谷山生美北海道の叔母宅へ
  - 31日 引山将司 塩谷由美 水山萌季措置解現員30名
- 今月の物品ご寄贈者 千葉市 川口雅資 東京 リズム時計工業 青木裕子 川口市 田沢優子 大宮市 川添 山ノ下恭二 栗橋町 ミマス 羽生市 松本明子 加須市 島崎なごさ 中村動物病院 大利根町 おおたに 老川伸子 大利根藤幼稚園の各位様 ありがとうございます 心して励みます (くら)

/// /// /// 反 射 光 /// /// ///

☆夏休みを前に子どもたちの表情に豊かさが深まります☆この国の子どもたちの状況は虐待が児童養護施設設の枠を超えて社会現象になってしまったことが明証します☆科学的であることが正しいことであるという300年を超える信仰は、自然から人の生活を隔離し、自分の子どもへの生命身体を破壊することが希なことではないところまで至りました☆虐待防止は緊要です☆しかし、新生児期や幼いうちに虐待を受けてしまった子どもたちへの対応はもつと急がなければならない☆そんなところでもまた「科学的」な「専門家」の方を向いてしまう私たちです☆産み出されたたくさんの理論や技法も大切です。それらは、笑顔が溢れ、出会えたことを喜び合う、そんな暮らしの自然さが自然のうちに醸し出される関係の中で、細胞分裂が傷をふさぎ、癒えて更に以前より遅しくなるまで待つ忍耐をもつ人の生活の役に立つためのものなのです☆そんな暮らしのそんな夏にしようと思ひます☆ご支援を、更に！